

阪神湾岸地域の高速道路網

## 整備促進議連が発足

### 会長に末松国交副大臣

大阪と神戸をつなぐ湾岸地域の高速道路ネットワークの早期実現を目指す「阪神湾岸地域高速道路網整備促進国会議員連盟」が20日

発足した。同日、東京・永田町の参院議員会館で設立総会が開かれ、写真、党派を超えた国会議員が集まった。会長には国土交通副大臣の末松信介参院議員が就

任。足立敏之参院議員が事務局長に就いた。

整備促進の対象は大阪湾岸道路西伸部（六甲アイランド北、駒栄）、名神湾岸連絡線、神戸西バイパスの3路線。大阪湾岸道路西伸部は17年度に新規事業化し、有料道路事業も導入されるなど、早期整備に向けた枠組みが整った。名神湾岸連絡線は計画段階評価が完了し、詳細ルートの検討などに着手した。



設立総会で、井戸敏三兵庫県知事らが高速道路網の早期整備に関する要望書を、議連の国会議員や国交省幹部に提出した。

末松会長は「きちっと整備しなければいけない路線だが、予算を確保していかないと前には進まない。道路予算の必要性を強く訴えていきたい。10年をめどにこの道路が実現するよう力を尽くしていく」とあいさつした。来賓で出席した国交省の石川雄一道路局長は「日本を引っ張る地域であり、ますますの発展に向け取り組んでいきたい」と述べた。阪神間の湾岸地域の高速道路網にはミッシングリンク（未連結区間）があり、地域が持つ産業・経済のポテンシャルを十分に生かされてないことが課題となっている。

日刊建設工業新聞

2017年7月21日